

# 下水道公社だより



しずくちゃん

—下水道 きれいな水を 未来まで—



すいてきくん

2007年春季号

## 目次

平成19年度を迎えて  
公社定期人事異動について  
ISO14001への取り組み

## 平成19年度を迎えて

財団法人 福島県下水道公社  
理事長 秋元 正 國  
(福島県土木部長)



平成19年4月に新たに理事長に就任いたしました。新年度を迎えるにあたりご挨拶を申し上げます。

下水道公社は、下水道に関する知識の普及・啓発を図るとともに、福島県が設置する

流域下水道の適正な維持管理業務を受託することにより、県又は市町村が実施する下水道事業の振興を図ることを目的として、昭和63年4月に設立されました。

業務の中心は、福島県より受託している阿武隈川上流流域下水道等の4終末処理場及び県中・県南地域流域下水汚泥処理施設(汚泥溶融)の維持管理業務であります。

また、下水道知識の普及啓発、下水道に関する各種調査・研究、下水道技術者の養成等の公益事業と市町村等からの設計・監理等の受託業務、水質分析受託業務、排水設備工事責任技術者資格認定業務等の収益事業について多岐にわたる事業を展開しているところです。

昨年度は、県の公社等外郭団体点検評価報告書で提言されました事項を踏まえ、「下水道公社

の次世代のあり方プラン」として公社の中期経営計画の策定作業を行うとともに、「下水道管理技術研究会」を開催し、コスト縮減の可能性及び方策等についても検討を行い、年度末にとりまとめを完了したところです。

県においては、流域下水道の維持管理業務に係る今後の委託のあり方について、「福島県流域下水道管理に関する懇談会」を開催し検討を重ねていたところですが、18年度末に、懇談会座長より流域下水道の管理はコスト縮減効果が期待できる「包括的民間委託」を進め、業務内容の履行確認は下水道公社に委託すべきである、との意見書が県に提出されました。

平成19年度の当公社の事業執行にあたりましては、県との協議及び市町村の方々の御支援をいただき、県の管理方針を踏まえた人員配置等経営体制の検討を行うとともに、引き続き全役職員一丸となって、県からの受託維持管理業務、普及啓発等各種事業の適切な執行とコスト縮減、並びに新たな公益事業について、取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。





この度の人事異動で副理事長となりました滝田久満です。今年3月付をもちまして福島県企業局を最後に福島県を退職し、関係の方々のご高配によりまして、財団法人福島県下水道公社

に勤務させて頂くことになりました。これまで無事勤めることができたのは、公私にわたり皆様方の温かい御指導と御厚情の賜ものであると深く感謝し、改めて御礼を申し上げます。

下水道につきましては、長い土木技術者としての経験の中でも携わったことはありませんが、最近の世界的な環境問題を考えるたびに、大きな関心を持っております。

財団法人 福島県下水道公社  
副理事長 滝田久満

私は、10年程前から知人に連れられて、山登りを始めましたが、その頃の富士山での汚物処理が雨水を攪拌し空中に散乱させるというずさんな現状を目のあたりにして驚きを隠せませんでした。一方、東北の早池峰山では、排泄物を持ち帰るといった運動に遭遇し、自分の今までの行動を恥じるとともに感動しました。

このような体験から、私は汚れを造る元から絶つのが下水道普及の原点と考えております。そのためには人間の努力が必要不可欠です。

下水道公社は、下水道知識の普及啓発事業や流域下水道の維持管理業務、各種の市町村支援事業を行っておりますが、より目標を高く持って事業に取り組んで参る所存であります。

もとより微力ですが、初心にかえって最善を尽くして参りますので、今後ともよろしく願いし申し上げます。

## 公社定期人事異動について

平成19年度下水道公社定期人事異動(4月1日付)があり、次の方々が新たに着任いたしました。

総務部長 遠藤邦道

(前：白河実業高校 主幹兼事務長)



この度の人事異動により、当公社で総務を担当することとなりました遠藤です。

下水道関係の業務に携わることで、そして公益法人である公社で勤務することともに初めてではありますが、社

員全員が共通認識をもって適時・的確に業務の遂行ができるよう本社内及び各センターとの連絡・調整を行うことが総務の基本かと思っております。

また、地球環境の悪化が懸念される中、当公社は、きれいな水を未来の世代に引き継ぐという重要な役割を担っておりますが、現在、県から委託されている流域下水道の維持管理について、その方式の見直しが進められており、あわせて当公社の在り方等の検討・見直しも求められております。県の下水道行政を補完する公社としての立場を踏まえながら、運営等のより一層の合理化・健全化が図られるよう、総務の立場からも全力で見直しに取り組んで参りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

業務部長 青戸良夫

(前：企業局相馬事業所 所長)



下水道は生活環境の改善や水環境の保全に欠くことのできないものであります。あるとないではすごい差がありますし、最終的には水を綺麗にしてそっと自然に帰してあげたいと思っています。

下水道公社を取り巻く環境は大きく変化し、現在いろいろな角度から検討されていますが、公社としても方向性を示す時期がきています。

私は昨年まで企業局相馬事業所におりましたが、「事業見直し実行計画」に基づき、具体性を持って真剣に取り組んで参りました。お陰様で無事に予定どおり目標を達成できましたが、何と言っても、「対話」とか「議論」といった経過をふまえた「相互の意志疎通」が何よりも重要であると感じています。いろいろな方々から多くの意見を聞きながら、スピーディーに対応して参りたいと考えています。

下水道公社の役割は極めて重要であります。皆さんとともに考えて参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしく願いします。

## 【県北浄化センター】

所長 八巻 誠一

(前：県北建設事務所 主幹兼企画管理部長)



当県北浄化センター周辺は桃畑や桜並木等の満開の花に囲まれ、今、まさに最高の季節を迎えております。

当センターでは、管路・ポンプ場・処理場等の下水道施設を、効率的に運用し、機能を

十分に発揮させるとともに、その機能を保持し長寿命化を計るため、現在、総合的な維持管理計画のもとに、計画的に維持管理を行っていますが、公社が構築した「環境マネジメントシステム」に基づき、今後とも各自が自己研鑽に努め職員一丸となってPDCAサイクルの継続的な改善を図っていきたく考えています。このためには、「現場主義」を徹底しながら、関係法令等の遵守はもとより、環境への付加の低減、循環型社会への貢献、環境へのリスク管理、災害時の危機管理等への対応を図る必要があります。最後になりますが、「下水道まつり」や、施設見学者、運動広場等の利用の方々を通じて、地域に親しまれる情報発信を行って、より当センターへの理解も深めて頂きたいと考えていますので、是非お出かけ下さい。

## 【本社・業務部計画設計課】

課長 伊豆 重一

(前：県北建設事務所 道路グループ課長)



この度の人事異動により、当公社に勤務することになりました伊豆重一です。どうぞ、よろしくお願いたします。

前任地の県北建設事務所では、事業部の道路グループ課長

として、平成17年12月に全線開通しました土湯バイパスの国道改築や伊達市梁川町の阿武隈川に架かる梁川大橋などの事業を担当しており、道路に関わる業務がほとんどで水に関する事業に携わっておらず、今回、下水道公社で初めて水に関する事業に携わることになり、業務内容や下水道事業について再認識しているところです。

私が所属する業務部計画設計課においては、県内市町村の下水道事業の推進に支援協力するため、設計・積算等を受託しておりますが、今まで培ってきた経験を生かして幾らかでも市町村の事業に貢献できるよう業務を遂行して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

## 【その他の異動】

【本社 業務部】 企画管理課 課長 鈴木正則 (計画設計課)

技師 近江和之 (南会津建設事務所)

計画設計課 主査 山岸和宏 (企画管理課)

【県中浄化センター】 調査役兼次長 紺野禎紀 (企画管理課)

【あだたら清流センター】 参事兼所長 二階堂一郎 (県中浄化センター)

【大滝根水環境センター】 主査 菅野清司 (施設管理グループ)

## ISO 14001への取り組み

当公社では、自然と調和した快適な水環境を次世代に継承する責務を認識し、人と自然が共生できる持続可能な社会の実現に貢献することを目指して活動しております。

監視測定の結果、すべての目標を達成することができました。目的目標を達成するために行ってきた主な取り組み内容は次のとおりです。

電気使用においては、処理場の維持管理の省エネ運転及び消灯の励行を推進。特A重油においては、汚泥溶融施設の適正な温度管理を行い、省エネ運転の励行。コピー用紙使用においては、両面コピー、使用済み用紙の裏面利用、所内電子文書の多用化を推進。エコマーク商品等購入推進においては、エコマーク商品等の積極的な購入推進。放流水質自主基準においては、法基準値よりさらに厳しく基準値を設定し、水質管理を徹底。次亜塩素酸ソーダの自主基準値の順守においては、放流水の水質を確認しながら次亜塩素酸ソーダの注入量調整。脱水汚泥リサイクルの推進においては、溶融、コンポスト化、セメント化を推進。溶融炉排ガスの自主基準値の順守においては、運転マニュアルに従い適正な運転の徹底。下水道普及促進においては、市町村への整備促進PR活動の励行。技術者養成の推進においては、排水設備責任技術者認定事業の更新講習会受講の推進を行って参りました。水環境保全のための啓発においては、施設見学者及び下水道まつり来場者へ下水道の役割をPRし下水道の普及促進と水環境の保全につい



て啓発を行いました。平成18年度の環境目的・目標の取り組みの結果は、次表のとおりです。

### 平成18年度環境目的・目標監視測定結果

環境目的	目標値	実績値	目標値比	評価	
1. 電気使用量の削減 (kwh/流入量)	0.554	0.528	95.3%	適合	
2. 特A重油の使用量の削減 (33.3L/t)	32.3	29.8	92.1%	適合	
3. コピー用紙使用量の削減 (枚)	516,150	502,500	97.4%	適合	
4. エコマーク商品等購入推進 (商品購入割合)	75.0%以上	98.5%	—	適合	
5. 放流水質の自主基準値の 順守 (順守率)	BOD (mg/L以下) 県北:13、県中:15、あだたら:15、大滝根:12	85.0%以上	100.0%	—	適合
	SS (mg/L以下) 県北:18、県中:15、あだたら:20、大滝根:10	85.0%以上	100.0%	—	適合
6. 次亜塩素酸ソーダの自主 基準値の順守 (順守率)	放流水の残留塩素濃度 (mg/L以下) 県北:0.4、県中:0.6	90.0%以上	99.3%	—	適合
7. 脱水汚泥リサイクルの推進 (t)	24,730	29,772	120.4%	適合	
8. 溶融炉排ガスの自主基準値の順守 (順守率)	窒素酸化物濃度180ppm以下	90.0%以上	97.9%	—	適合
9. 下水道の普及促進 (受託設計の推進) (千円)	180,000	193,398	107.4%	適合	
10. 技術者養成の推進 (排水設備更新講習会受講人数)	841	879	104.5%	適合	
11. 水環境保全のための啓発	施設見学者数: 3,916人、下水道まつり: 15,500人				

また、平成19年1月25・26日での、2年次サーベイランスの結果は、適切に実施、改善されているとの評価を得ました。平成19年度からは、新たに設定した目標に向かってシステムの運用を行っていくこととしております。なお、環境方針は次のとおりです。

## 環境方針

### 《 基本理念 》

財団法人福島県下水道公社は、自然と調和した快適な水環境を次世代に継承する責務を認識し、当公社職員及び当社で働く人々が地球環境の保全と汚染の予防に努め、人と自然が共生できる持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。

### 《 活動方針 》

当公社は、下水道の維持管理、下水道に係る計画・設計、下水道の普及啓発及び排水設備工事責任技術者認定等の事業活動を行っております。この領域の事業活動が環境へ影響を与えていることを認識し、地球環境保全活動に努めます。

- 次の事項を重点テーマとして取り組みます。
  - 水環境保全のため、良好な水質の確保に努めます。
  - 省資源・省エネルギーに取り組むほか、廃棄物の排出削減のためリサイクルを推進するなど環境への負荷の低減に努めます。
  - 下水道整備のための事業に取り組み、水環境保全に貢献します。
- 環境マネジメントシステムの継続的な改善と汚染の予防に努めます。
- 環境側面に関する法的要求事項、及び、当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- 環境方針の達成のため、環境目的及び目標を設定して実施するとともに、定期的にレビューします。
- この環境方針は文書化し、当公社の職員及び当社で働く人々に周知します。
- この環境方針は、一般の人々にも入手出来るようにします。

平成19年 4月 1日

財団法人 福島県下水道公社  
理事長 秋元 正國

### 財団法人 福島県下水道公社

〒960-8103 福島市舟場町2番1号 福島県庁舟場町分館3F

TEL 024-524-3510(代)

FAX 024-524-3513

Homepage:<http://www.fspc.or.jp>

E-mail:[kikakukanri01@fspc.or.jp](mailto:kikakukanri01@fspc.or.jp)

※本誌の発行については、業務部企画管理課までお問い合わせください。